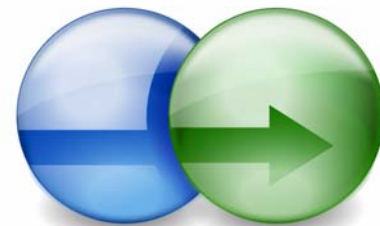




Relay<sup>101</sup>

---

# 日東紡グループ 2010年度 決算説明会



Relay<sup>101</sup>

2011年5月13日

# 目次

## I .2010年度決算の概要

## II .2011年度業績予想と今後の取組み

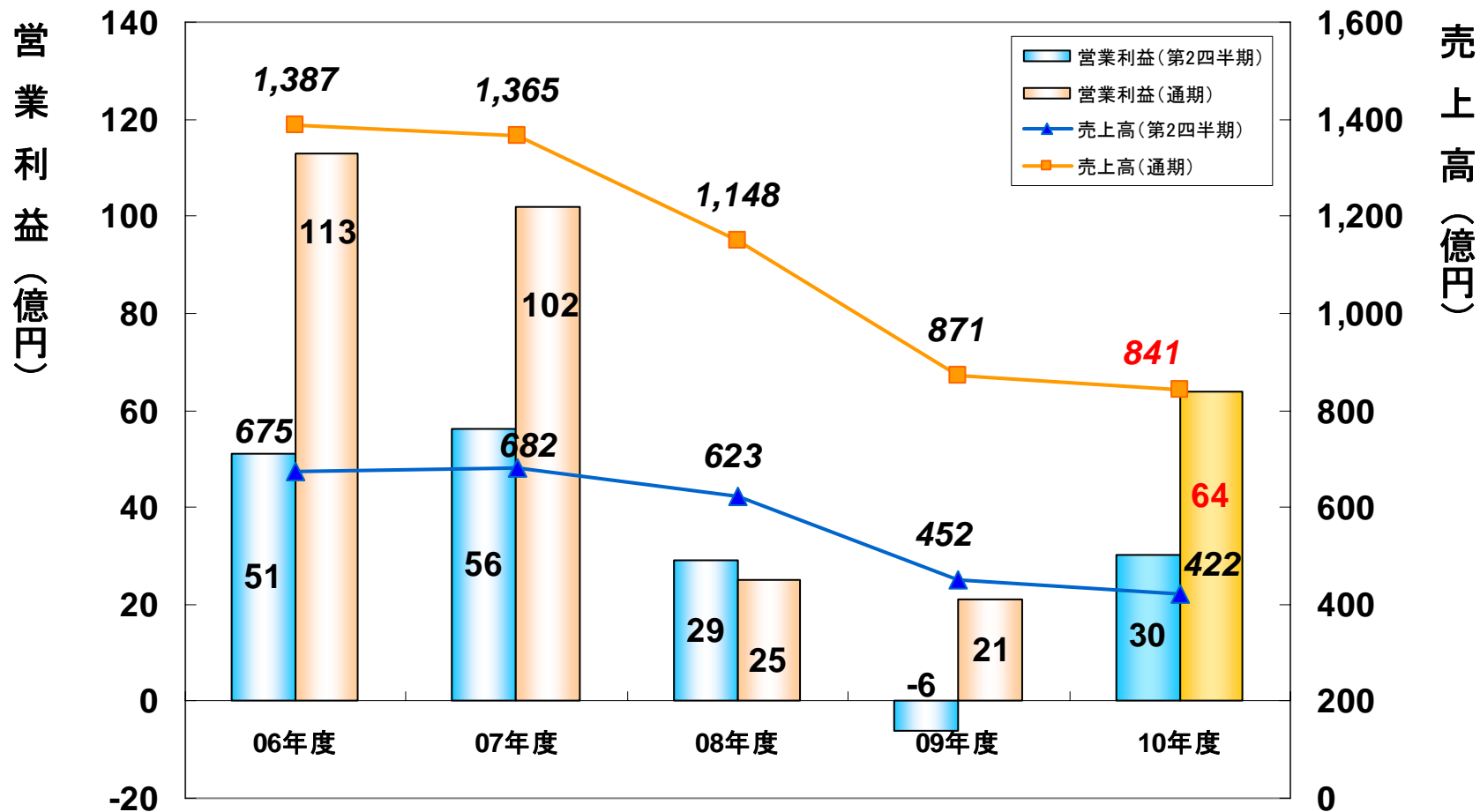
# I. 2010年度決算の概要

# 1. 業績概要

(億円)

	2009年度	2010年度	増減	増減率 (%)
売上高	871	841	▲30	▲3.4
営業利益	21	64	43	199.5
営業利益率 (%)	2.5	7.7	5.2	—
経常利益	14	60	46	321.7
当期純利益	13	28	15	108.3

## 2. 売上高・営業利益の推移



### 3. 財務及びキャッシュフロー

(億円)

	2009年度	2010年度	増減
総資産	1,290	1,280	▲10
純資産	545	557	12
自己資本比率(%)	41.2	42.4	1.2
1株当たり純資産(円)	266.32	272.40	6.08

	2009年度	2010年度	増減
営業キャッシュ・フロー	9	115	106
投資キャッシュ・フロー	▲21	▲41	▲20
フリーキャッシュ・フロー	▲11	74	85
財務キャッシュ・フロー	▲52	▲55	▲3
現金及び現金同等物期末残高	129	146	17

## 4-1. セグメント別業績

2010年度

(億円) (参考) 2009年度

(億円)

	売上高	営業利益 (営業利益率(%))
繊維	73.5	3.0 (4.1)
G/F	481.3	44.8 (9.3)
環境	171.1	7.6 (4.5)
医薬・飲料	99.4	12.3 (12.3)
その他	16.3	2.0 (12.4)
消去	—	▲4.8 (—)
計	841.6	64.9 (7.7)

	売上高	営業利益 (営業利益率(%))
繊維	74.6	3.4 (4.6)
建材	236.1	3.1 (1.3)
G/F	432.8	8.8 (2.0)
その他	127.7	20.6 (16.1)
消去	—	▲14.3 (—)
計	871.1	21.7 (2.5)

\* 当年度より、セグメントの区分を変更しております。

## 4-2. セグメント別業績推移(四半期別)

(億円)

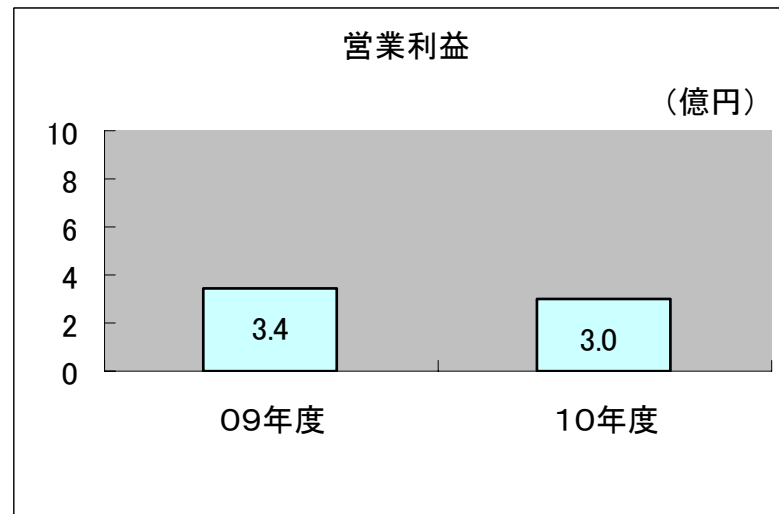
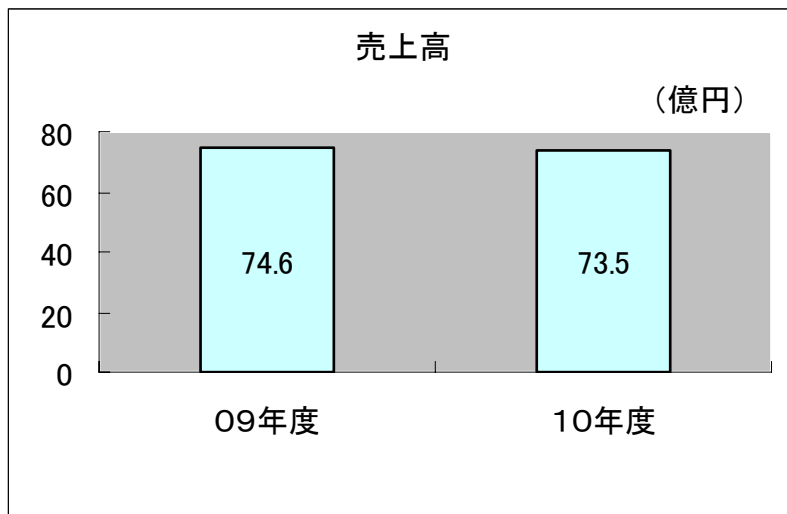
セグメント		2009年度				2010年度			
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
繊維	売上高	17.5	18.7	19.5	18.9	18.1	18.1	20.2	17.0
	営業利益	0.2	0.9	1.5	0.8	0.9	0.7	1.1	0.3
G/F	売上高	89.8	108.9	112.3	121.8	119.6	124.3	120.5	116.9
	営業利益	▲7.7	▲2.2	5.0	13.7	11.1	10.8	11.4	11.5
環境*	売上高	—	—	—	—	32.8	44.4	43.5	50.4
	営業利益	—	—	—	—	▲2.0	1.7	2.5	5.4
医薬・飲料*	売上高	—	—	—	—	26.4	29.9	22.8	20.2
	営業利益	—	—	—	—	3.8	4.5	2.3	1.6
その他	売上高	37.0	32.4	30.3	28.0	4.4	4.2	4.1	3.6
	営業利益	5.2	5.3	5.7	4.4	0.9	0.6	0.4	0.1
消去	売上高	—	—	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲2.3	▲2.9	▲4.0	▲5.1	▲1.7	▲1.2	▲0.5	▲1.3
計	売上高	213.5	239.1	200.9	217.6	201.3	220.9	211.2	208.1
	営業利益	▲8.2	2.2	9.1	18.6	13.0	17.1	17.2	17.7

\*「環境事業」「医薬・飲料事業」は、セグメントを変更したことにより前年度の売上高・営業利益を記載しておりません。



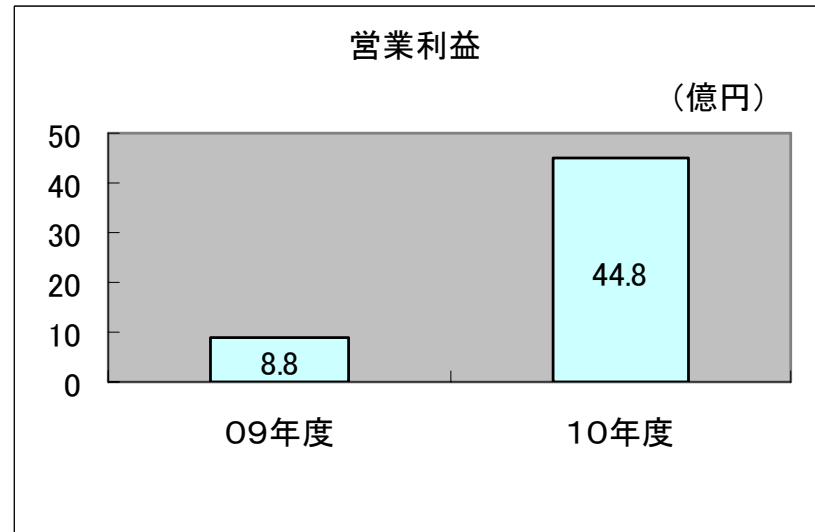
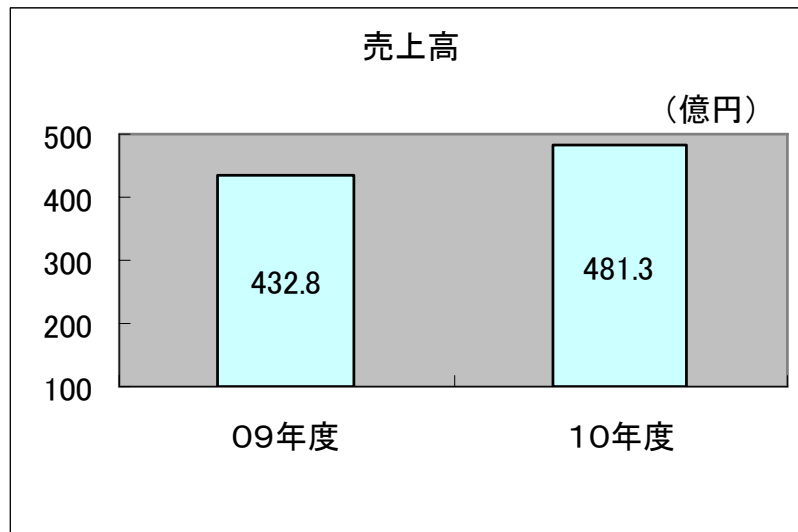
## (1) 繊維事業

原系素材は、原綿価格の高騰やアパレル業界の低迷が続き、衣料資材も衣料品消費が依然低調であるなど、総じて厳しい環境の下、顧客との関係強化等により高付加価値品の拡販とコストダウンに努めた。



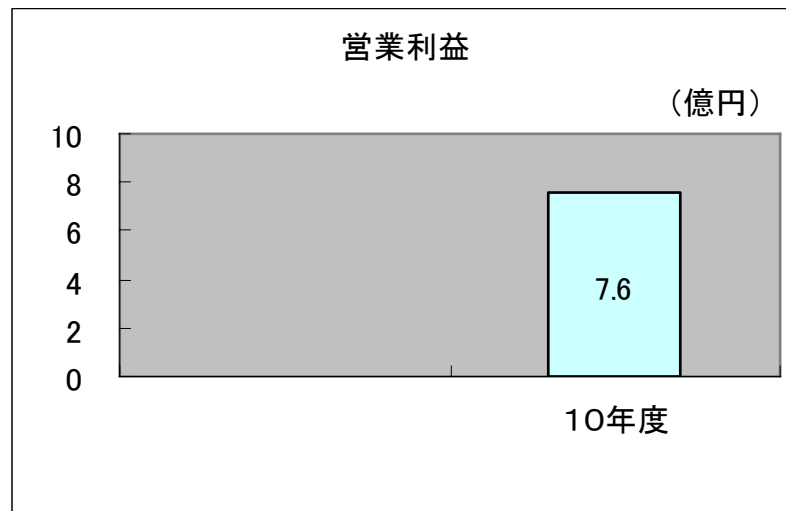
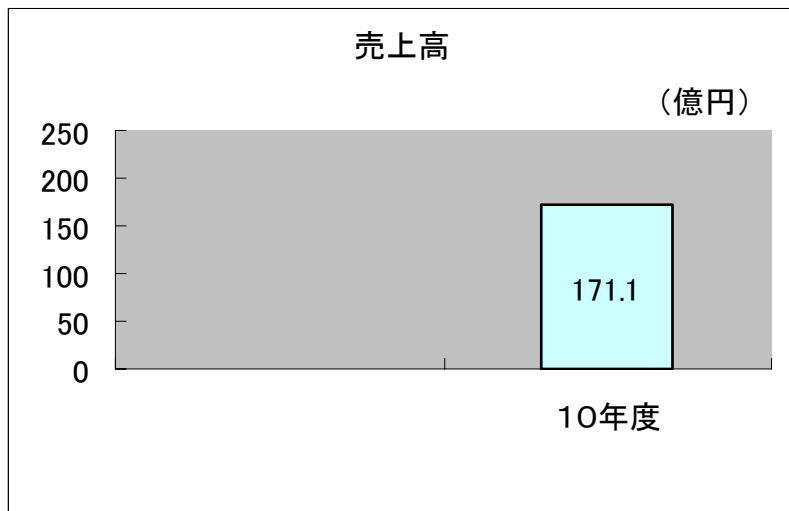
## (2) グラスファイバー事業

- ・電子材料用途・・・プリント配線基板向けの需要が国内・海外で堅調に推移した。
- ・強化プラスチック用途・・・電気・情報機器分野及び自動車分野が堅調に推移した。
- ・産業資材用途・・・防水関連、工業材料等を中心に拡販に努めた。



### (3) 環境事業

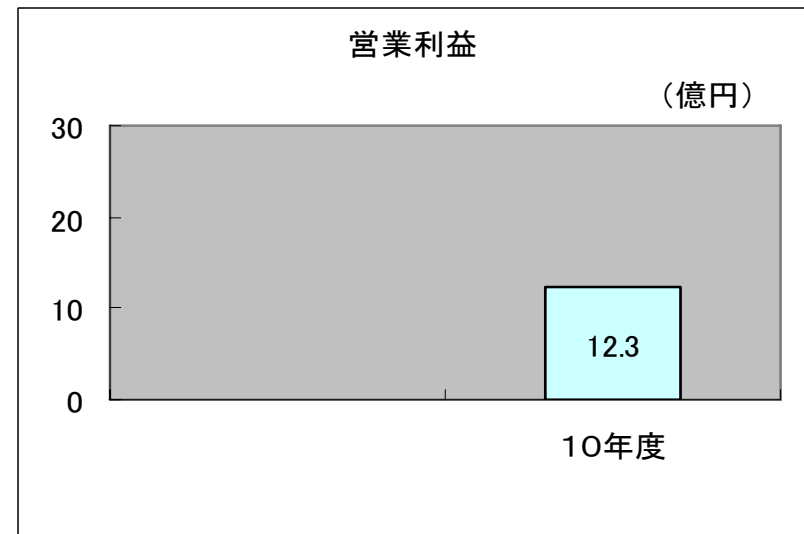
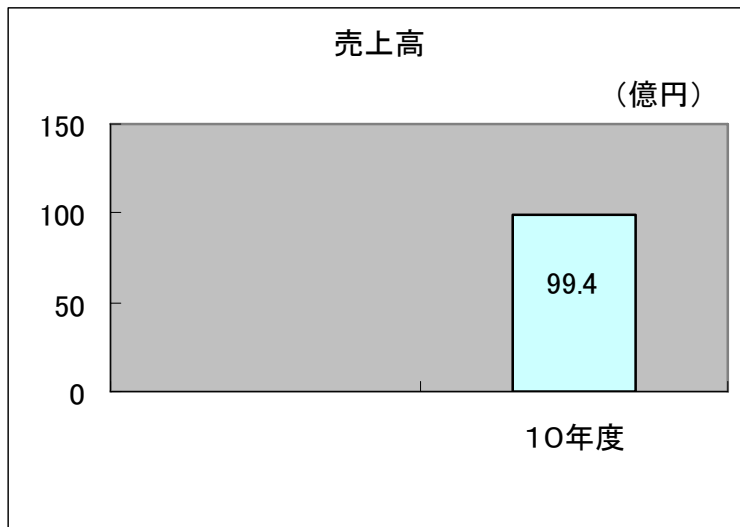
断熱材分野・・・新設住宅着工戸数が低調ななか、省エネ・環境対応関連の需要が旺盛で堅調に推移した。  
 エンジニアリング・工事分野・・・国内設備投資の回復遅れ等の影響を受けた。  
 グリーンビジネス分野・・・ロックウール培地の販売に加え、植物工場での農産物の栽培及び販売を開始した。  
 スペシャルティケミカルス分野・・・機能商品の上市と新規用途の開拓に努めた。



※「環境事業」はセグメントを変更したことにより、前年度の売上高・営業利益を記載していません。

## (4) 医薬・飲料事業

- ・体外診断薬分野・・・開発・製造・販売が一体となって国内・海外での拡販を推し進めた。
- ・飲料分野・・・新商品の開発を進めて拡販に努めた。



※「医薬・飲料事業」はセグメントを変更したことにより、前年度の売上高・営業利益を記載しておりません。

## Ⅱ. 2011年度業績予想と今後の取組み



# 1. 2011年度業績予想

為替: 80円/US\$  
原油価格(ドバイ): \$100/バレル

(億円)

	2009年度通期 実績	2010年度通期 実績	2011年度 予想	対前年 増減率 (%)
売上高	871	841	850	1.0
営業利益	21	64	65	0.1
経常利益	14	60	60	0.0
当期純利益	13	28	30	6.9

## 2. セグメント別動向と今後の取組み

【全体】 ※当社は、セグメント別の業績見込み数値は開示しておりません。

新興国の経済成長等を背景とする景気回復の期待がある一方、東日本大震災等による経済活動への影響も懸念されるなか、お客様のニーズに即した高品質な商品の安定供給や、先進的な独自技術の開発を通じて付加価値を創造し、人と地球環境に貢献し続ける。

【セグメント別】 ※本年4月よりスペシャリティケミカルズ事業を、当社連結子会社であるニッポーメディカル㈱に承継させる吸収分割を行いました。

繊維事業	営業と技術が一体となり、日東紡独自の高品質な製品で、顧客への訴求力をさらに高めていく。
グラスファイバー事業	更なる高付加価値化の推進・収益構造の強化を図り、環境変化への弾力性が高い事業基盤を一段と確固たるものにしていく。
環境事業	断熱材は省エネ関連での需要増に対応。グリーンビジネスおよびエンジニアリング・工事分野では、ニーズに即した商品・技術を提供し、新規顧客開拓を一層強化していく。
医薬・飲料事業	多様化する顧客のニーズに対応し、より幅広い分野で安心・安全な製品を提供していく。またメディカル・スペシャリティケミカルズのコラボレーションを図ることで、より一層の発展を目指す。

## 本資料の取り扱いに対する注意事項

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績数値や施策の実現を確約・保証するものではありません。